

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	乙第1232号	氏名	小口泰尚
論文審査担当者	主査 柴祐司 副査 今村浩・山田充彦		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>心房細動患者において CHADS2 スコア及び CHA2DS2-VASc スコアは確立された予後予測因子である。一方、ABI 値は一般的に末梢動脈疾患の診断に有用なだけでなく心血管イベント、全死亡の良好な予後予測因子であることが知られている。しかしながら、心房細動患者において ABI 値が良好な予後予測因子となり得るかどうかは不明である。本研究は、心房細動患者において ABI 値が心血管イベントに対する予後予測因子となりうるかどうかを評価した。</p> <p>その結果、以下の結果を得た。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 低 ABI 群では有意に CHADS2 スコア、CHA2DS2-VASc スコア、血清クレアチニン値、NT-pro BNP 値が高値でありヘモグロビン値、e-GFR 値、HDL コレステロール値は有意に小さかった。また、心臓超音波所見として左室駆出率が有意に小さかった。</li><li>2. MACE は 398 人中 52 人(13.1%)で生じた。内訳は心臓血管死が 37 人、心筋梗塞が 4 人、脳卒中が 11 人であった。</li><li>3. 入院時の ABI 値が 0.92 未満であった群は 0.92 以上であった群と比較して有意差をもって MACE 発症が多かった(66 人中 17 人 対 332 人中 35 人, ハザード比 2.2, 95% 信頼区間 1.3 - 3.6, p 値 = 0.0056)。</li><li>4. CHA2DS2-VASc スコアが 2 点以上と 2 点未満の群においては 2 点以上の群で有意差をもって MACE 発症率が大きかった(ハザード比 3.0, 95% 信頼区間 1.2 - 7.4, p 値 = 0.0079)。</li></ol> <p>これらの結果から心房細動患者は、脳卒中、心不全増悪入院、死亡の高リスクであり、心房細動患者において CHADS2 スコアおよび CHA2DS2-VASc スコアは脳梗塞や心不全、心血管死の予後予測因子として知られているが、低 ABI 値が CHADS2 または CHA2DS2-VASc スコアと同様に心血管死、脳卒中、心不全増悪入院の予測因子となりうる可能性が示唆された。心房細動患者において入院時 ABI 値が低値である場合末梢動脈疾患のリスクであるのみならず、将来その患者は心血管イベント発症リスク、死亡リスクが高いと考えられ、積極的な心血管疾患に対する予防、治療などの介入に寄与することが期待される。よって主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			